

# 独自削減 改善の具体策見えず 引き続き交渉

賃金独自削減に関する大衆団体交渉が2009年1月7日(水)18:30から市役所3・4号会議室にて行われました。交渉には、組合側からは松本市労連中央執行委員長以下役員・組合員を含めて約150名が、当局側からは高橋市長・徳川病院事業管理者以下10名が参加しました。

これまでの交渉で組合側は、組合員における最大の削減幅が33.2%と管理職の最大削減率を上回ることや、政策決定に関して何の関与もできない若手組合員が一律で管理職と同じ削減率になることはおかしいと考え、さらに、昨年の団体交渉において竹中副市長が「末端の職員に財政悪化の責任はなく、削減率に傾斜をつけたい」としたことがほんの数ヶ月で覆る点についてただしてきましたが、当局側は条例への傾斜の明文化は難しいの一点張りで本日の交渉にいたっています。

交渉の冒頭、松本委員長は「今回の提案については、健全化計画に強く反映される賃金の20%削減・現給保障の廃止・住居手当の持家部分の国公準拠をメインに交渉してきた。提案内容は尋常ではない。計画は市民生活にも大きな影響をもたらす。13日にストを配置し、これまで総務部長を中心に交渉してきたが、計画が住民に周知された後であり厳しい内容での交渉となった。計画は市・市民・職員の将来を決定付けるものである。この原因についてはこれまでも反省をされているが、財政を健全化することが大事である。われわれは市民のために仕事をしなければならない。交渉に入る前に確認したいことが何点かある。①この健全化計画推進への決意、②市長は就任時「職員は家族」と語っていたがその考えは変わらないか、③職員の生活実態の把握と理解はされているのか、について確認したい。」と述べました。

これに対し高橋市長は「昨年の9月に財政危機宣言を行い、病院職員・市職員には日頃がんばってもらっているにもかかわらずこのような提案をするという状況は、私自身つらい選択であるが、留萌市を、市立病院を守るという強い思いを持った上での判断であり、お詫びとお願いをしたい。昨年は市民に計画を詳しく説明し、厳しい意見もあったが納得いただけたと思う。計画を進めなければ地域医療を守れないという思いは納得いただけた。市民サービスを削ることに厳しい意見もあるが受け止めていきたい。皆さんは今でも家族であると思っている。市民の信頼を得るためにもどうか健全化計画にご理解をいただき、留萌市を守りたい」と述べました。

具体的な事項に入り、松本委員長は「計画を議論し、市を再生団体にはいけないとの決意から、計画実行は理解するが、7年間は長すぎる。また、一貫して一律削減は納得できず、傾斜をつけるべきであると要請してきた。現給保障の廃止を含めると3割削減となる職員がおり、また、若手職員には不公平感があり、さらに、医療スタッフが確保できなくなり、改革プラン自体が回らなくなってしまう。削減率の傾斜についての認識はあるのか。」と問いいただきました。

高橋市長は「厳しい提案をしていると思っている。指摘の部分は、即答はできないが協議の中で納得していただける部分の接点を、労使の信頼の中でできることを行いたいと思うので理解いただきたい。」と回答しました。

松本委員長は条例での傾斜は無理でも結果としての傾斜は協議できるということか。」と問いだしたところ、高橋市長は「その認識であり、信頼を大切に、誠実に対応したい。」と回答しました。

この後、交渉の再開と中断を繰り返し、組合員の意見をいただきながら執行部としての考え方を整理していきました。また、高橋市長からの回答も得てきました。

- ・傾斜に関して即答できないということは、条例への明記を即答できないのか、運用面のことか。
  - (高橋市長)運用面の部分である。
- ・組合員では最大削減率が33%であるにもかかわらず、管理職はこれを下回る。管理職は更なる削減を考えるのか
  - (高橋市長)重く受け止めて、納得できるように進めたい。
- ・病院はスタッフ確保ができないと回らない。院長は議会で確保を答弁しているが具体的な方策を示してほしい。
  - (徳川院長)確保は必要であるが、財源の問題もあり現在も検討中である。

以上のように、具体的な方策について示されないことから、2度目の再開交渉において松本委員長から以下の点について具体的な方策を示すよう求めました。

- ① 健全化計画は7年間であるが、09年度～11年度を重点期間とし、それ以降については協議とする。計画の進捗についても年2回協議する。
- ② 健全化計画外の事態が起こった場合は協議する。
- ③ 今回以上の削減は一切受けられない。
- ④ 職員が仕事に対するモチベーションを失い、メンタル対策や職場環境の整備を行う。
- ⑤ 現役職員だけでなく、寄附金条例を活用しOBにも協力を要請する。
- ⑥ 病院スタッフ確保はこのままの提案では相当数退職してしまうし、現に就職活動をしていると聞いており、確保対策の方策を提示してほしい。
- ⑦ 一律20%の削減は負担感に不公平感があり、管理職はさらに削減するという具体的なものが見えない。具体的な改善策を提示してほしい。また、現給保障廃止で多大な影響のある職員への措置の具体策を提示してほしい。

これに対し高橋市長は、「即答できないので時間をいただきたい。」としたことから、松本委員長は「13日にストライキを配置している。時間はないが、いつでも交渉に応じる。状況によっては13日の配置も考える。」としてこの日の交渉を終えました。

執行部では、松本委員長も話したとおり「留萌市を再生団体にさせない」との思いも含めて最大限での協力をするための前提として若年層対策、現給保障対策、病院スタッフ確保対策に関する理事者側の考えをただしてきましたが、残念ながら、今回の交渉でも具体的な方策は何一つ出ませんでした。理事者は、組合員を納得させる具体的な方策を示すべきであります。

今後の交渉については未定であり、場合によっては連休中の交渉も考えられます。交渉はあくまでも大衆団交と考えていますので、各分会長は連絡網を作成し、1月9日(金)午前中までに組合書記局に提出して下さい。

## 最後まで団結してガンバロー